

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス 〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811



## TOPICS.1

### 第20回定期株主総会開催

去る6月12日(金)、信金中央金庫北海道支店において、当社の株主である道内全20金庫のご出席(委任状出席6金庫含)をいただき、第20回定期株主総会を開催いたしました。

当日は、第19期(2019年度)事業報告の後、第1号議案の貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書承認の件に始まり、定款変更の件や任期満了に伴う取締役選任の件など全6議案について審議、全て原案通り承認されました。

なお、会議に先立ち、武田社長から次のとおりご挨拶がございました。

#### 挨拶内容

本日は、各金庫総代会で何かとお忙しい中、当社定期株主総会にご出席いただき誠に有難うございます。

今年は始まって早々、新型コロナウイルスの騒動が勃発し、経済も、普通の社会生活さえも全てストップしてしまいました。国内ではようやく緊急事態宣言解除となりましたが、第2波・第3波への警戒は続くと見られ、全く油断できないものと思います。どの業界も大きな打撃を受けましたが、中でも経営を直撃した飲食店や宿泊業、観光等々の業界の皆様には心からお見舞いを申し上げるとともに、最前線で命がけで戦っておられる医療従事者の方々には心から感謝の意を表したいと思います。

そして今回、言うまでもなく信用金庫においては、緊急の資金繰り融資等、地元への支援策に乗り出し、何とかこの危機を乗り越えるべくご尽力されたことだと思います。トップの皆様を前に、大変おこがましい事を承知で申し上げますが、こんな時こそ地域密着の信用金庫の出番であり、地元住民の方に改めて存在価値を確認いただき、どこの銀行でもない、我が地域には信金が寄り添っているという心強さ、安心感を持ってもらう重要な機会になったのではないかと、勝手ながら思っておりました。

当社はその信用金庫が持っている「信金のための会社」であり、1ベンダーではありません。こんな時こそ、業界の一員として、当社に何ができる、どんなことで貢献できるか、そのことを一層考える機会にもなりました。本日総会を迎えるに当たり、改めて昨年度の事業内容や決算内容を振り返り、どれだけ皆様にお世話になってきたか、その恩返しはできているかを回想させていただきました。

その時、当社は確かに今、情報サービス会社として、今の形で

今あるサービスの提供を生業としておりますが、全国7情報会社の中でも当社が少しだけ違う顔を持っていると感じるのは、今でも北海道信金共同事務センターからのお付き合いを引きずっと、その時の良好な関係を今も財産として持ち、その中で仕事をさせていただいているというところが、全国の他6社とは似て非なるところと改めて感じた次第です。

そして、その関係性というのは、先人の方々のご苦労からきているもので、それを基礎から築いてくれたのが、センター創設メンバーの一人である竹谷専務取締役であると思います。その専務が、本日をもって退かれる事になっておりますので、本総会の最後に専務からご挨拶をいただきたいと思います。

また、当社取締役としては、今回の改選に伴いまして、苫小牧信金の石田会長から退任の申し出を受けました。石田会長には2期4年にわたりご指導ご鞭撻をいただき大変お世話になりました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

これからも、皆様のご支援のもと、その使命を十分自覚しまして、ご期待に少しでもお応えするよう尽力してまいりますので、一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



取締役  
および  
監査役

代表取締役会長 増田正二 (帯広信用金庫相談役)  
代表取締役社長 武田大二郎 (企画・営業推進、コンプライアンス担当)  
代表取締役副社長 藤谷直久 (道南うみ街信用金庫理事長)  
常務取締役 池田達哉 (総務、システム管理、為替集中、自動機監視、地域支援担当)  
取締役 山田隆秀 (室蘭信用金庫理事長)

取締役 熊尾憲昭 (空知信用金庫理事長)  
取締役 館崎雄二 (伊達信用金庫理事長)  
取締役 宮井清隆 (留萌信用金庫理事長)  
取締役 伴道弘 (網走信用金庫理事長)  
監査役 大沼孝司 (日高信用金庫理事長)  
監査役 伊藤修治 (北海道信用金庫協会専務理事)

## 退任のご挨拶



専務取締役  
竹谷 信行

私と6月12日の株主総会をもちまして、北海道しんきん情報サービスの専務取締役を退任いたしました。

在任中は、皆様には公私にわたり格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

思えば、昭和49年、北海道信用金庫協会 北海道信金共同事務センター準備室が私の社会人生活としての第一歩でした。

それまでは、医者を目指した苦学生でしたが、出来も悪く、また、何よりも私自身を支えてくれていた今の家内にこれ以上苦労を掛けたくないという思いで働くことといたしました。

私の不甲斐ない話はここまでにいたしまして、この時代はまさに、信用金庫の事務処理が手作業からコンピュータの時代に変わろうとしていました。

金融業務の経験もなく、コンピュータの知識がない私に求められたことは、金融業務をいち早く習得し、電電公社の膨大なシステム設計書を理解することでした。毎日が勉強の連続でしたが、その後、中空知信用金庫(現 北門信用金庫)札幌支店に数ヵ月通わせていただいたことで、金融業務についての見識を深めることができました。

北門信用金庫の皆様方にはいろいろお世話になり、感謝の意に堪えません。

共同オンラインシステムは普通預金から始まり、定期性、当座と拡大され、目まぐるしい展開のなか、新総合オンラインシステム、第三次オンラインシステムそしてポスト三次システムへと移行していきました。

さらに、受益者負担的要素が強い業務の合理化、省力化をめざし平成13年10月に関連会社として現在の北海道しんきん情報サービスが誕生いたしました。

その後、全国7つあったセンターは更なるコンピュータ経費の削減を目的に統合し、平成26年4月に現在のしんきん共同センターとして生まれ変わりました。

私の45年間の歩みは、まさに、しんきん共同システムの歴史とともにありました。

この45年の歴史には、一言では言い表せない苦悩もたくさんありましたが、それを共有できた大勢の仲間と、諸先輩の方々からのお教えに導かれ大過なく職務を全うすることができましたこと、心よりお礼申し上げます。

これらのお教えは、これから私の人生にとって、大切な心の支えになっていくことと思います。

今節、コロナ禍の影響で、個人や企業の活動スタイルが大きく変化しつつありますが、どんな時でも北海道しんきん情報サービスが金庫に寄り添って真に役立つ存在になっていくことを、武田社長を中心とする全社員に託していきたいと思います。

末筆になりましたが、皆々様の末永いご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げまして、私のお礼の言葉とさせていただきます。

第5回

信用金庫インタビュー

## 伊達信用金庫



伊達信金 総務グループの皆様

## 支出書管理システムについて

- 支出書管理システムは、現在6金庫にご利用いただいている、伊達信金様は道内では先進でご導入いただいております。ご導入の経緯をお聞かせください。

経理関連の担当者が集まるTASC連絡会で、経費関連を管理することができるシステムに関する要望が多数出まして、そこで金庫要望を盛り込んだシステムを金庫で共同利用できるよう、HSISにシステム提供を依頼したのが始まりです。

「導入しやすい価格」・「使い勝手の良さ」の条件が揃ったことも導入の決め手となっています。

- ご利用開始から3年が経過いたしましたが、システムの使い勝手等はいかがでしょうか。

リエンタデータを作成することができるため、オペレーションが減り、事務負担の軽減に役立っています。

また、予算・実績の管理や各店舗・部署毎の支出をシステムで一元管理することができる所以、効率化を実感できております。

- 今後、当システムに関する展望や期待していることはありますか。

金庫運用に沿って開発され、金庫ごとにカスタマイズできるシステムなので、今後多くの金庫に展開され、金庫間で良い部分を共有することで、より良いシステムに発展していくことを期待しています。

また、金庫数が増えても、変わらず柔軟にカスタマイズ等行っていただきたいと思います。

## 支出書画面

経費の支出申請を行う。登録したデータはサーバ上で一元管理される。

## 支出書印刷

支出伺書をシステムから印刷することが可能。

## 伝票印刷

※リエンタデータの作成も可能  
支出項目名や金額等が印字された状態で印刷される。

## TOPICS.4

# ATM電子ジャーナル集中保管システムのサービス拡充

ATM電子ジャーナルの集中保管システムについては、2018年4月より日立オムロン社製ATMを対象に当社仮想サーバにおいて、自動収集・長期保管ができるシステムとして提供しております。

従来、富士通社製と沖電気社製のATMは、手動でジャーナル収集を実施いたしましたが、情報サービス会社間ネットワークを敷設したことにより、しんきん大阪システムサービス(株)(OSS)が提供するシステムと連携し、同2社のATMも自動収集が可能となりました。

これにより、ATMベンダーに捉われることなく電子ジャーナルデータを安心安全に保管することが可能となります。

### ■サービス概要図



### ■仕様比較表

項目	富士通・沖電気	日立オムロン(当社提供)
ジャーナル保存期間	サーバ内：3年間 媒体：7年間	サーバ内：8年間 媒体：8年間
収集タイミング	リアルタイム (取引単位)	夜間/パッチ
ジャーナル保管場所	OSSサーバ	HSISサーバ

### スケジュール

お申込みからご提供までに5ヵ月程度を想定しておりますが、ネットワーク作業やサーバ構築作業状況により、前後する場合があります。

## TOPICS.5

# DM作成サービスのご紹介

DM作成サービスは、各金庫が独自で発送している各種DMの作成・発送業務を当社にアウトソーシングいただくサービスとして提供しております。本サービスでは、印刷・封入封かん等の作業負担を無くすほか、共同利用による価格のスケールメリットが期待できます。

2019年9月のサービス提供開始以降、2金庫にご利用いただいている、お陰様でご好評いただいております。

ハガキ形式に限らず、封書等も併せたDM全般に幅広く対応いたしますので、DMに関してお困りの際は是非とも当社にご相談ください。

### ■金庫活用事例

- 年金受給者向けDM
- 店舗統廃合通知DM
- カードローン契約更新のお知らせ 他

ご要望に合わせ、自由に内容を作成いただくことができるほか、より見やすいDMになるよう、デザインのアドバイスや、デザイン作成を当社にお任せいただくことも可能です。

### ■ご利用の流れ



### ■DMイメージ 例：年金受給者向けDM



当社指定のフォーマットで印字データをいただける場合は、DMデザインの校了後最短1.5ヵ月で発送が完了いたします。お申込みについては、随時受付けております。

サービスにご興味をお持ちの金庫様は企画・営業推進グループ宛までお気軽にお問い合わせください。 ☎ 011-221-2210

## Coming soon! ホームページの開設について

現在、当社のホームページの開設に向けて準備を進めております。本サイトには、当社の会社概要や事業内容等を掲載し、ご提供しているシステムやサービスも一覧でご覧いただけます。また今後は、最新情報や新規サービスも随時掲載いたしますので、是非ご覧いただければ幸いです。

なお、ホームページ開設時期は秋頃を目指して進めております。開設時は、再度本誌にてご報告させていただきます。



## 「北海道しんきんネットワークエキシビジョン2020」開催延期のお知らせ

2年に1度開催しております当社展示会「北海道しんきんネットワークエキシビジョン」は、今年度開催を予定しておりましたが、昨今の新型コロナウィルス感染症の状況を鑑み延期とさせていただきました。

つきましては、来年度の開催に向けて準備を進めて参りますので、開催に際しましては各信用金庫・関連会社様に格別のご協力を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811